

(10)九州



九州地域では、景気は緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに増加している。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

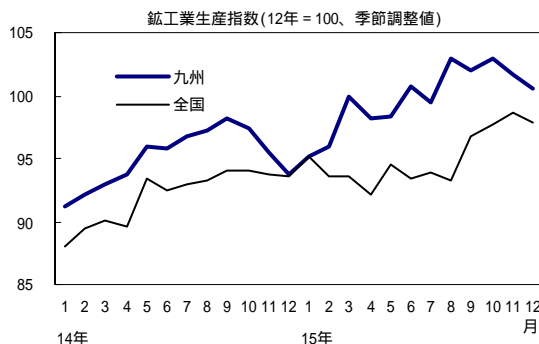
前回調査からの主要変更点

	前回（平成 15 年 11 月）	今回（平成 16 年 2 月）	
鉱工業生産	増加	緩やかに増加	
住宅建設	おおむね横ばい	増加	
雇用情勢	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きもみられる	依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに増加している。

電子部品・デバイスは、薄型テレビ向けのプラズマディスプレイパネルやデジタル家電向け、車載向けのICが好調であることから増加した。輸送機械は、自動車の生産が高水準で推移しているものの、海外に生産移管された車種があったことから減少した。一般機械は、半導体製造装置の生産で、海外向け、国内向けともに動きがみられ、やや増加している。食料品・たばこは、ギフト用の肉製品等の増加により全体でも増加した。化学は、大規模工場定期補修があったことなどから減少した。



(備考) 平成 15 年 12 月の九州は速報値。

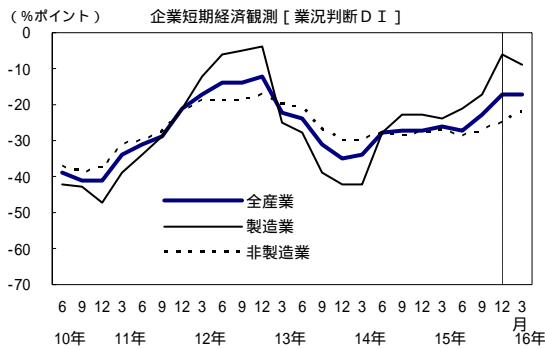
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		7~9 月期	10~12 月期	10~12 月期	10~12 月期
電子部品・デバイス	14.9	2.7	3.1	3.4	13.9
輸送機械	11.7	2.4	3.6	1.6	34.0
一般機械	11.0	1.5	0.2	0.4	4.3
食料品・たばこ	10.8	0.6	1.4	0.1	4.5
化学	8.5	7.4	8.1	6.6	3.8
鉱工業	100.0	2.3	0.4	1.0	3.1

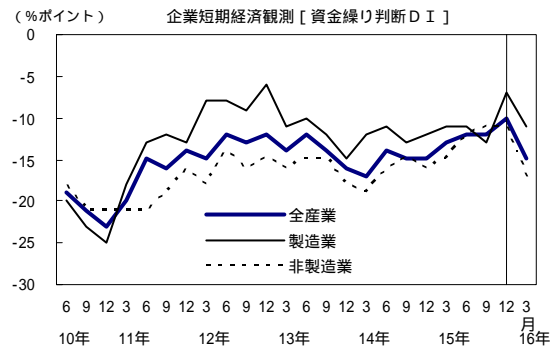
(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 10~12月期は速報値。

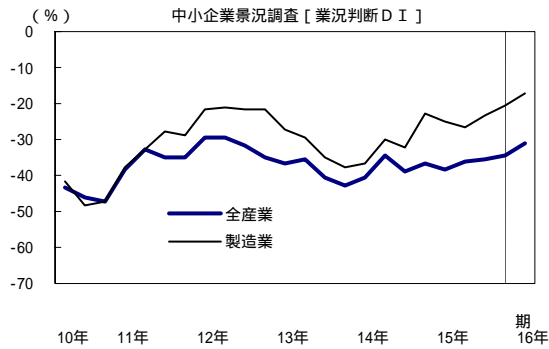
(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。
 企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。16年3月は予測。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (1月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「相変わらず受注が継続せず、山、谷の差が激しい。また、短納期化が進んでおり、仕事はあるが、受注できないような状況もある(一般機械器具製造業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

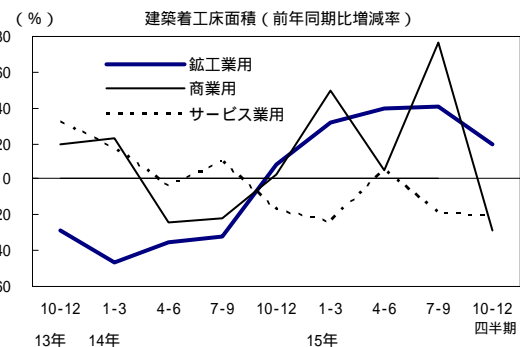
(3) 15年度の設備投資は前年度を上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (12月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

	14年度実績	15年度概
全産業	11.3	7.8 (2.3)
製造業	2.9	17.1 (4.4)
非製造業	14.5	3.8 (1.4)

(備考)()は前回(9月)調査比修正率。



2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

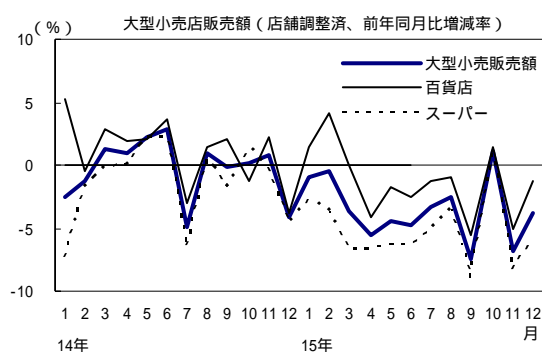
大型小売店販売額及び乗用車新規登録・届出台数

百貨店は、10月には地元球団の2度の優勝セールにより、婦人服や身の回り品など衣料品の動きが良く、前年を上回った。11月は気温が高めに推移したことから冬物衣料など季節商材を中心に動きが鈍く、前年を下回った。12月は歳暮ギフトに動きがみられたものの、気温が高めだったことや年明けのバーゲンセール前の買い控えなどにより、冬物衣料や身の回り品の動きが鈍く前年を下回った。なお、九州百貨店協会によると、九州・沖縄の1月の売上高は前年同月比で0.6%増となっている。

スーパーは、地元球団の優勝セールにより10月は前年を上回ったものの、11月以降は気温が高めに推移し、衣料品が振るわなかったことなどから前年を下回った。

景気ウォッチャー調査(1月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

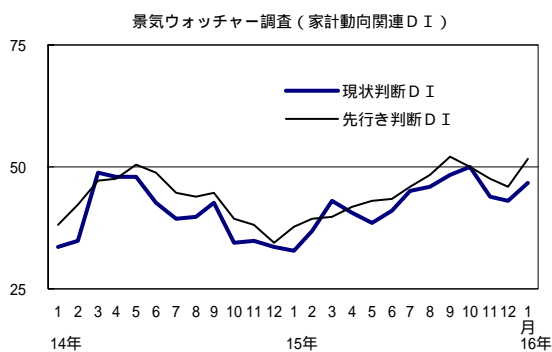
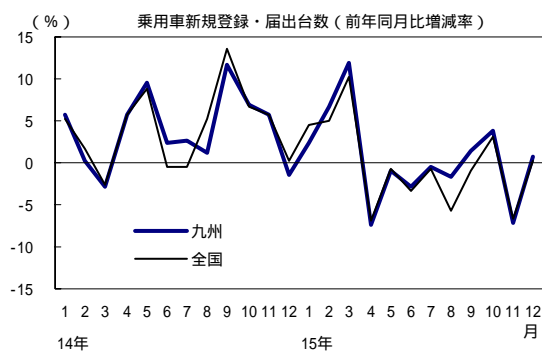
「暖冬の影響で衣料品にはブレーキがかかったものの、年末年始用の商材の中には売上が伸びているものもある。以前と傾向は変わらず、横ばいの動きである(商店街)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月
大型小売店	1.7	4.9	4.3	3.3
百貨店	1.7	2.8	2.4	1.7
スーパー	4.4	6.4	5.7	4.6
乗用車	7.9	3.6	0.1	1.0
景気ウォッチャー	37.5	40.0	46.5	45.6

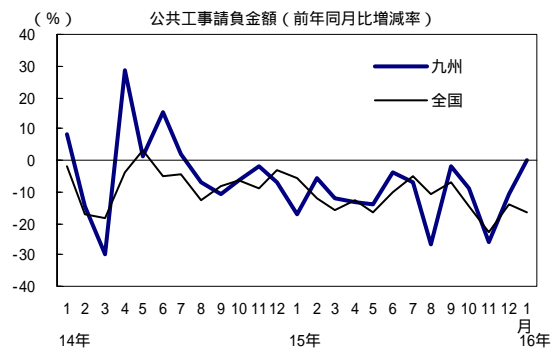
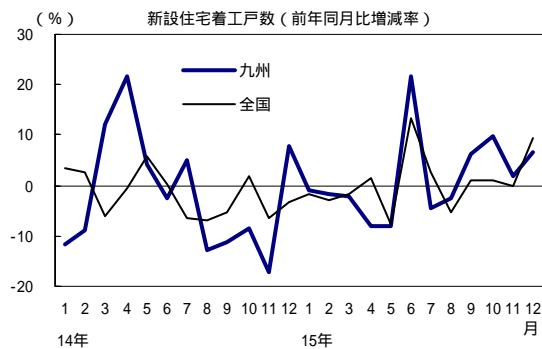
(備考) 1. 大型小売店販売額は店舗調整済。九州・沖縄地区の値。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は増加している。

分譲、持家はおおむね横ばいであったものの、貸家が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は年度累計で見ると前年を下回っている。

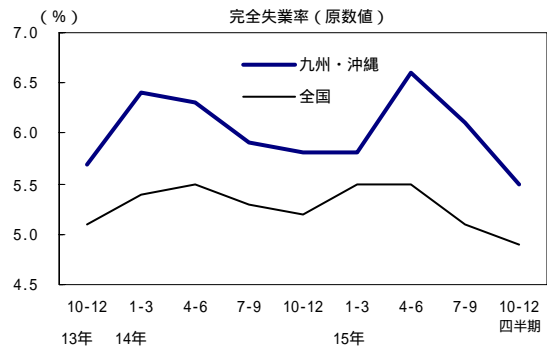
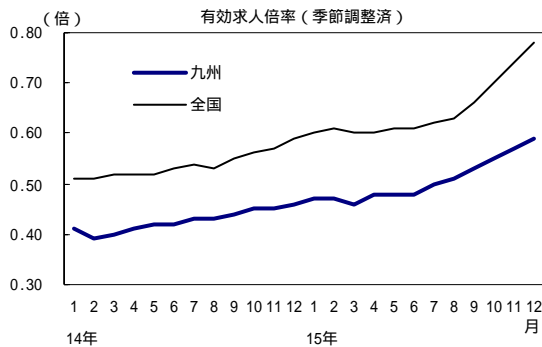


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい状況だが、持ち直しの動きが強まっている。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査(1月調査)[雇用関連(現状判断)]

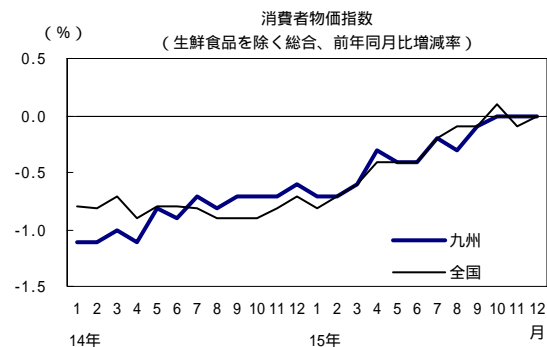
「今月に入り求人数が前月比1.5倍と飛躍的に増えた。求職者も就業している人が多い(人材派遣会社)」など、「やや良くなっている」とする回答が多くみられた一方で、「新規求人数については9か月連続増加し、ここ3か月は前年比50%増を超えている。しかし、内容はパート求人、派遣請負であり、非正規型求人が多い(職業安定所)」など「変わらない」とする回答も多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年1-3月	4-6月	7-9月	10-12月	16年1月
倒産件数	353	375	363	335	93
(前年比)	14.1	11.1	9.7	20.8	19.8
負債総額	3,369	1,299	1,821	1,983	145
(前年比)	140.1	59.1	37.3	29.7	38.4



景気ウォッチャー調査(1月調査)[合計D I (特徴的な判断理由)]

<現状>

・デジタルカメラ、半導体生産等の好調な製造業を始め、ほとんどの主要産業からの新規求人数が前年比でここ数か月増加となっている(職業安定所)

<先行き>

・春先に向けて、新店オープンなど一時的な効果が期待される。また、顧客回遊ルートの変化で来店客数の増加を予想している(百貨店)

景気ウォッチャー調査(合計D I)

